

## 福生市 松林分館平和事業の取り組み

福生市公民館松林分館 松浦裕人

福生市公民館では、毎年「平和事業」を各館で実施しています。

私が所属する松林分館では、福生在住の方に講演をしていただき、戦争当時の出来事を後世へ語り継ぐ取り組みを毎年行っています。

今年度は、戦後74年目の終戦記念日である8月15日（木）に実施し、台風の接近による悪天候にも関わらず、約30名の市民にお集まりいただきました。

講師は幼少より福生にお住まいで「福生むかし絵」という福生の昔の景色を描いた記憶画を作成されている窪田成司氏をお招きしました。

講演の前半は、終戦になって感じた「静けさ」の振り返りからお話が始まりました。前日までけたたましく鳴り響いていた米軍機の音が消え、玉音放送の後に静寂の時間が訪れたという記憶から語り始め、そこから学生時代を過ごした戦中に遡り、物品統制のこと、食料が配給制になったこと、学徒動員で従軍したことなど、終戦までの実体験を語っていただきました。

講演の後半では、「福生むかし絵」についてお話しいただきました。住人の屋号を書き留めておくために描き始めたのがきっかけで、描写の正確さは歴史資料としても価値があり、郷土資料室で特別展示が行われたり、市内にある古民家（旧ヤマジュウ田村家住宅、有形登録文化財）の土蔵の中にも作品が常設展示されています。その中から複数の作品を会場のスクリーンに投影し、目立たないように作られた半地下の兵舎が描かれた絵画から始まり、多摩川の様子、祭りの様子、酒造りの様子などのお話を伺うことができました。



戦争体験者の高齢化に伴い、ご登壇いただける方が年々少なくなり、戦争当時の出来事・地元の昔の様子を知る機会が減っていくなかで、貴重なお話を伺うことができる平和講演会は、今だからこそ継続して実施していかなければいけない非常に大切な公民館事業であると改めて実感することができました。

(平和事業の様子)